

【原 著】

中学校の職場体験学習のための SST プログラムの実践

松浦 和輝 三宅 幹子

The Practice of Social Skills Training for Work Experience in Junior High School

Kazuki MATSUURA, Motoko MIYAKE

2016

岡山大学教師教育開発センター紀要 第6号 別冊

Reprinted from Bulletin of Center for Teacher Education
and Development, Okayama University, Vol.6, March 2016

原 著

中学校の職場体験学習のためのSSTプログラムの実践

松浦 和輝^{*1} 三宅 幹子^{*2}

職場体験学習の効果をより高めるための一つの方法として、事前に対人スキルやコミュニケーションスキルを身に付けるための学習を行っておくことが必要であると考え、職場体験学習の事前学習において、3回のソーシャルスキルトレーニングと異年齢交流活動を実施した。事前学習が始まる前の職場体験学習に対する期待と不安を変量としたケースのクラスタ分析により、3つのクラスタが得られた。第1クラスタは期待が低く、不安は中程度あるクラスタと考えられる(n=21)。第2クラスタは期待が高く、不安が低いクラスタと考えられる(n=20)。第3クラスタは期待と不安の双方が高いクラスタと考えられ、全体の約半数がこのクラスタに属していた(n=41)。ソーシャルスキルトレーニングの実践を通して、第3クラスタの不安の減少が有意にみられた。

キーワード：職場体験学習, ソーシャルスキルトレーニング, コミュニケーションスキル, 中学生

※1 岡山大学大学院教育学研究科大学院生

※2 岡山大学大学院教育学研究科

I 問題と目的

子どもたちを取り巻く社会環境はとどまることなく変化しており、都市化や少子化などの変化に伴って、子どもたち自身の生活や意識も大きく変容している。そうした中で、これまでの子どもたちに比して、社会性の不足、規範意識の低下、人間関係や連帯感の希薄化、集団や社会の一員としての自覚や責任感の低下などが指摘されている。加えて、高水準で推移する若年者の失業率や就職後の早期離職、ニート問題が表出している。こういった問題に対して、勤労観や職業観の育成や、コミュニケーション能力やソーシャルスキル、人間関係の大切さを体得する場として期待されているのが職場体験学習である(文部科学省, 2008)。

職場体験学習の成果とコミュニケーション能力との関連について調査している先行研究として以下のものがある。

山田(2008)では、対人能力の高い中学生は、体験先の方との人間関係づくりがスムーズに進むことで、職場体験への満足感や進路に対する意識の高まりも、大きく変容することが報告されている。

寺崎(2009)は、職場体験学習の事前事後における生徒への質問紙調査や、体験先の担当者へのインタビューを通して、職場体験学習の効果と問題について報告している。生徒に対する質問紙調査では、

職場体験学習を通じて、中学生の規範意識の高まりや働くことの誇りや厳しさなどへの肯定的な回答の増加が報告されている。担当者へのインタビューでは、地域の事業所が職場体験学習に期待している効果は、子どもたちがこの活動を通じて社会そのものと出会うことであり、将来の職業選択やキャリアプランといった直接的なことは重視されていないと報告されている。また問題点として、生徒本人やその保護者のコミュニケーション不足により、受け入れ事業所のやる気を削いでしまっているといった結果が見受けられたことが報告されている。

下村(2010)は、職場体験学習後の生徒に対する自由記述課題を用いた調査において、生徒と体験先の方との会話内容は仕事内容の話や学校の話が多いと報告している。加えて、体験先の方との会話についての記述の多い生徒ほど、職場体験学習に対する感想が良いと報告している。また、見知らぬ大人と話をすること自体が、職場体験学習における経験の中の、重要な要素の1つであることを示唆している。

以上から、中学生の職場体験学習の効果をより高めるための一つの方法として、事前に対人スキルやコミュニケーションスキルを身に付けられるような学習を進めることが有効であると考えられる。

金山・中台・江村・前田(2005)は、職場体験学習を活用したソーシャルスキルトレーニングのプロ

プログラムの作成と実践を報告している。ソーシャルスキルトレーニング (Social Skills Training :SST) とは、子どもの対人関係能力の向上や改善をはかり、子どもの社会的適応を目指す介入療法である (江村・磯部・岡安・前田, 2003)。ソーシャルスキルとは、統一された定義はないが、対人場面において適切かつ効果的に反応するために用いられる言語的及び非言語的な対人行動と、そのような対人行動の発言を可能にする認知過程との両方を包含する概念である (相川, 1996)。

不登校やいじめなどの、子どもの学校適応にかかわる問題に対して、予防的効果を期待して実施される学級単位の SST の実施が盛んとなっている (大対・松見, 2010)。中学生を対象とした学級単位の集団 SST における研究が多く報告されているが (例えば, 江村, 2007; 江村・岡安, 2003; 藤原・河村, 2011; 本田・大島・新井, 2009; 金山・小野, 2006), 小学生を対象としたものに比べると数が少ないため (高橋・小関, 2011), さらなる研究の蓄積が必要であると考えられる。

中学生における職場体験学習と連動したプログラムを作成した金山・中台・江村・前田 (2005) では、ターゲットスキルを「上手な頼みかた」に設定し、3回のトレーニングを行っている。毎回の授業終了後には授業に対する感想を4件法で調査しており、受容度・理解度・必要度・実用度ともに、8割以上の生徒が良好な回答をしていた。また、トレーニングの前後の職場体験学習への意識調査では、職場体験学習への期待や不安、学習したスキルを活用するかどうかを質問している。期待はトレーニングの前後では変化が見られなかったが、不安については統計的な有意差はなかったものの、全体平均の値はトレーニング後に上昇する傾向がみられた。学習したスキルを活用するかどうかについては、「わからないことがあれば、職場の人にたずねようと思う」、「職場で困ったことがあれば、職場の人に助けをもらおうと思う」の両方が有意に上昇していた。

ソーシャルスキルトレーニングの他に、子どもたちのソーシャルスキルを高められると考えられる方法として、異年齢交流活動がある。国立教育政策研究所生徒指導研究センター (2011) は、異年齢交流活動について、公立の小中学校は同じ地域の異年齢の子どもが集まってくる場所であり、かつての近隣や家庭での「異年齢の交流による社会性の育ち」を再現することが期待できると報告している。

以上から、本実践は職場体験学習の事前学習においてソーシャルスキルトレーニングを実践することで、子どもたちの不安を軽減し、職場の人とのコミュニケーションにおける自信を高めることを目的とする。

II 方法

1 対象者

中国地方にある公立の中学校2年生に在籍する92名を対象者とした。対象者が所属する学年は3学級で構成されていた。

2 実施期間

2015年10月上旬から11月中旬に職場体験学習の事前学習の一部として、SSTを計3回実施した。また、職場体験の一週間前には同校の3年生との交流活動を実施した。事前学習は総合的な学習の時間を用いて、期間中の毎週水曜日に2校時分行われていた。職場体験学習は11月中旬に行われた。

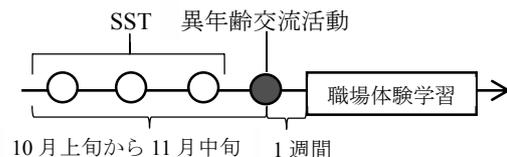


Figure 1 SSTと異年齢交流活動の実施期間

3 授業者

授業者は3学級とも、学級担任の教師と、第一著者のチームティーチングにて行った。ロールプレイのモデリングやグループワークの補助者としては、心理教育を学んだ大学生らが毎回3名から6名参加した。交流学習においては授業の進行を第一著者が行った。

4 トレーニングのスケジュール

トレーニングのテーマは佐賀県教育センター (2012) を参考に、職場体験学習の事前学習と連携するように著者らがプログラムを作成し、その後学年担当の教師らに内容を確認してもらった。プログラム開発の流れは、まず著者らと教師らで交流学習に関する計画及び、ターゲットスキルを選定するための打ち合わせを行った。その後協議を重ねながら、プログラムの案を作成した。各トレーニングのテーマと目標を Table 1 に示す。

各トレーニングの内容は、事前学習や職場体験学習と対応したものとした。第1回目の電話のかけか

たは、生徒自身が実施の3週間後に、事前学習として体験先の職場へ事前訪問のアポイントメントをとるための電話をかける際の実施内容に対応させた。第2回目の印象の良い自己紹介のしかたでは、当該トレーニングの3週間後に、生徒自身が体験先の職場へ事前訪問に行った際の自己紹介の内容に対応させた。3回目の相手が快く引き受けてくれる頼み方は、著者らおよび教師らが職場体験で最も必要と考えて設定した。

Table 1 各トレーニングのテーマ及び目標

回数	テーマ	目標
第1回	気持ちの良い電話のかけ方（見えない相手への質問のしかた）	・言葉だけで伝えることの難しさに気づく ・気持ちの良い電話のかけ方のポイントを知る
第2回	印象の良い自己紹介のしかた	・自分のことを知ってもらうことの大切さに気づく ・自己紹介のポイントがわかる
第3回	相手が快く引き受けてくれる頼みかた	・相手の立場にたった頼みかたの大切さに気づく ・頼みかたのポイントを知る
交流活動	職場体験について先輩に教わろう	・3年生の先輩に礼儀正しく接することができる。 ・3年生の先輩から役に立つ情報を教わり、職場体験を成功させる。

トレーニングの流れとしては、導入、ウォーミングアップ、モデリング、ロールプレイ、まとめの順で各回を構成した。スキルの定着化のため日常的に取り組むことのできる「チャレンジシート」を導入した。それに加え、トレーニングで学習した内容を概観できるよう、トレーニングで用いたワークシートやチャレンジシート、ふりかえりシートなどをまとめるためのファイルを配布し、教室で保管させた。各回のトレーニングの概略は巻末Appendixに示す。

5 調査方法

プレ調査（SSTを導入する前に行った調査）とポ

スト調査（全てのSST及び異学年交流活動が終了した後に行った調査）において、職場体験学習への意識調査を行った。また、各トレーニングの終了時においては、生徒による評価や、職場体験学習への意識に関する調査をふりかえりシートにて行った。

なお調査の実施にあたっては、調査の実施方法やプライバシー保護について、参加者に十分に説明を行い、内容についても調査協力校の教師に承諾を得てから実施した。また、プレ調査の調査紙には答えたくない質問には答えなくても良い旨を記載し、実施時に口頭でも説明を行った。

（1）プレ調査・ポスト調査

プレ調査とポスト調査では、5件法（1＝「まったく思わない」、2＝「そう思わない」、3＝「どちらでもない」、4＝「そう思う」、5、「とてもそう思う」）にて以下の内容を尋ねた。

①期待度：「職場体験が楽しみだ」、②不安度：「職場体験でうまくやれるか不安だ」

調査時期は、プレ調査はトレーニング開始の前日に行い、ポスト調査は職場体験学習の1週間前に行った。

（2）ふりかえりシート

【職場体験学習に対する意識調査】

①期待度：「職場体験が楽しみだ」と「楽しみではない」、②不安度：「職場体験が不安だ」と「不安ではない」の間をそれぞれ5から1の5段階の数字で評定するよう、5件法で尋ねた。

【生徒による評価】

①好意的受容度：「楽しかった」と「楽しくなかった」、②参加度：「積極的に取り組めた」と「取り組めなかった」、③実用度：「職場の方との接し方に自信がついた」と「つかなかった」の間をそれぞれ5から1の5段階の数字で評定するよう、5件法で尋ねた。

III 結果

1 生徒による評価

ふりかえりシートを用いて調査した、各トレーニングと交流活動についての生徒による評価をFigure 2～Figure 4に示す。

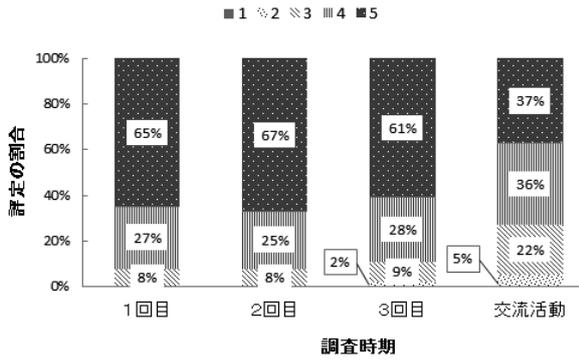


Figure 2 好意的受容度

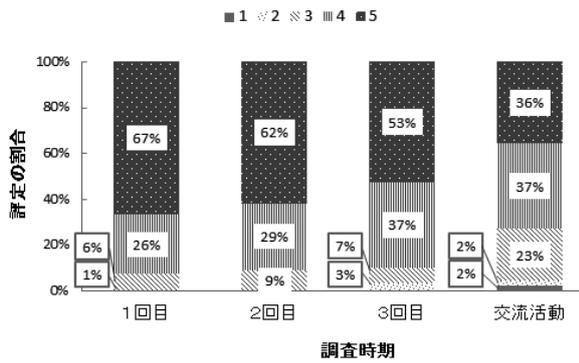


Figure 3 参加度

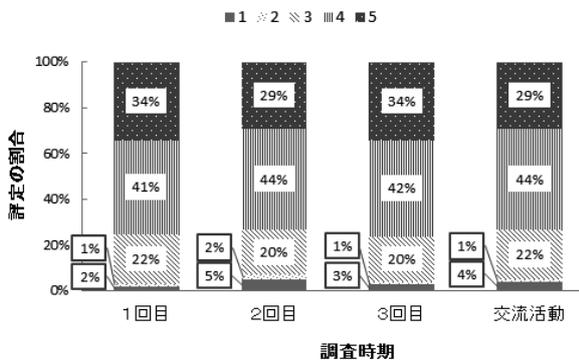


Figure 4 実用度

2 職場体験学習に対する意識

(1) クラスタ分析

期待と不安について、多様な生徒がいると考えられる。生徒の実態を検討するために、プレ調査における職場体験に対する意識調査の「期待度」と「不安度」を変数として、平方ユークリッド距離を基にしたクラスタ分析（ウォード法）を行った。デンドログラムからクラスタ内平方和増分15を基準としたところ3クラスタを得た（Figure 5）。「期待度」と「不安度」について、各クラスタの平均値と標準偏差をTable 2に示す。

Table 2より、第1クラスタは期待が低く、不安

が中程度のクラスタ、第2クラスタは期待が高く、不安は低いクラスタ、第3クラスタは期待も不安も高いクラスタであった。

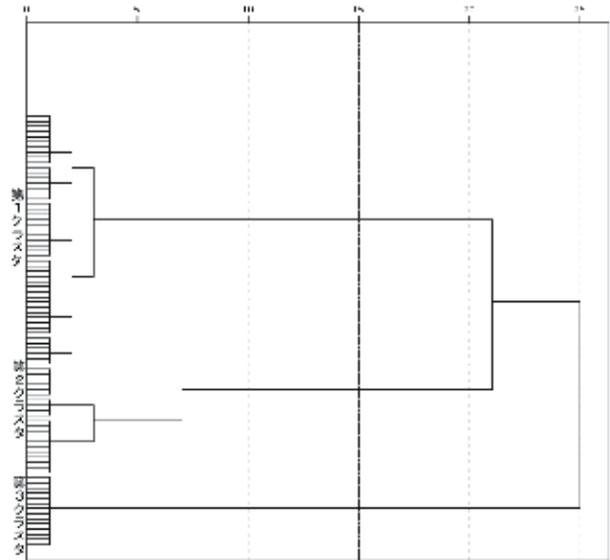


Figure 5 プレ調査における「期待度」と「不安度」を変数としたクラスタ分析のデンドログラム

(2) 職場体験学習に対する意識の変化

ソーシャルスキルトレーニングの効果を検討するために、職場体験学習に対する意識の得点について、クラスタと調査時期を要因とする2要因の分散分析を行った。「期待度」については、クラスタの主効果 ($F = (2, 81) = 27.41, p < .001$) と交互作用 ($F = (10, 405) = 2.92, p < .01$) が見られた。交互作用について、測定時期の単純主効果は、第1クラスタにおいてのみ有意であった ($F = (5, 405) = 4.01, p < .01$)。多重比較（Ryan法）の結果、プレ調査と第1回、第3回のトレーニング、交流活動、ポスト調査の間において5%水準で有意に上昇していた。また、クラスタの単純主効果が有意であったものについては、多重比較（Ryan法）の結果をTable 2に示した。「不安度」については、クラスタの主効果 ($F = (2, 81) = 27.93, p < .001$) と調査時期の主効果 ($F = (5, 405) = 5.63, p < .001$)、交互作用 ($F = (10, 405) = 2.05, p < .05$) が有意であった。調査時期の主効果からは全体的に、プレ調査と各トレーニングの間に下降し、各トレーニングからポスト調査にかけて上昇することが示された。交互作用について、測定時期の単純主効果は、第1クラスタと第3クラスタにおいて有意であった ($F = (2, 405) = 3.36, p < .01$; $F = (2, 405) = 4.90, p < .001$)。多重比較（Ryan法）の結果、第3クラスタのみ、プレ調査と各トレーニング、交流活

Table 2 各クラスにおける職場体験学習に対する意識調査の
平均値と標準偏差

期待度				
クラス	1(n=21)	2(n=20)	3(n=42)	多重比較の結果
プレ調査	2.33 (0.71)	4.75 (0.43)	4.61 (0.49)	1<3, 2
第1回	3.24 (1.92)	4.35 (1.15)	4.47 (0.90)	1<2, 3
第2回	3.00 (1.45)	4.15 (1.49)	4.30 (1.05)	1<2, 3
第3回	3.38 (1.21)	4.50 (1.12)	4.19 (1.15)	1<3, 2
交流活動	3.10 (1.44)	4.20 (1.25)	4.02 (1.29)	1<3, 2
ポスト調査	3.14 (1.28)	4.35 (0.85)	4.19 (0.97)	1<3, 2
不安度				
クラス	1(n=21)	2(n=20)	3(n=42)	多重比較の結果
プレ調査	3.62 (0.95)	1.85 (0.73)	4.42 (0.49)	2<1<3
第1回	3.29 (1.12)	1.60 (0.92)	3.16 (1.38)	2<3, 1
第2回	2.86 (1.39)	1.75 (1.30)	3.37 (1.26)	2<1, 3
第3回	2.95 (1.09)	2.25 (1.55)	3.33 (1.44)	2<3
交流活動	2.81 (1.26)	1.90 (1.22)	3.49 (1.52)	2<3, 1
ポスト調査	3.67 (1.36)	2.20 (1.12)	3.86 (1.32)	2<1, 3

動、ポスト調査、及び第1回のトレーニングとポスト調査の間において5%水準で下降が有意であった。また、クラスターの単純主効果が有意であったものについては、多重比較（Ryan法）の結果をTable 2に示した。

IV まとめ

本実践の目的は、職場体験学習の事前学習においてソーシャルスキルトレーニングを実践することで、子どもたちの不安を軽減し、職場の人とのコミュニケーションにおける自信を高めることであった。

各授業が生徒によって好意的に受け止められていたかは、Figure 1より各トレーニングは約9割の生徒が楽しかったと回答している。交流活動は7割以上の生徒が楽しかったと回答している。生徒の参加度は、Figure 2より各トレーニングは9割以上の生徒が積極的に参加できたと答えており、交流活動においては、7割以上の生徒が積極的に参加できたと答えている。スキルの実用度は、Figure 3より各トレーニングと交流活動全てにおいて7割以上の生徒が、自信がついたと答えている。

以上から、本実践におけるソーシャルスキルトレーニングのプログラムと交流活動が生徒にとって好意的に受け止められており、職場体験学習への自信を高めることがわかった。交流活動については、受容度や参加度がトレーニングと比べると低くなっている。2年生と3年生混合のグループに分かれ、3年生が主体的に進行を行う授業であったことから、グループによる内容の差や、コミュニケーションス

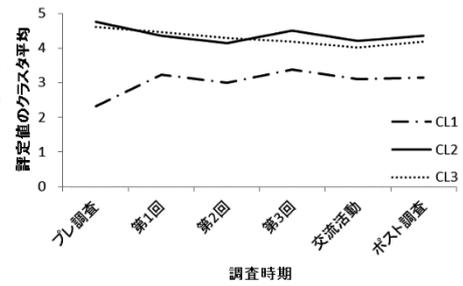


Figure 6 「期待度」の平均値

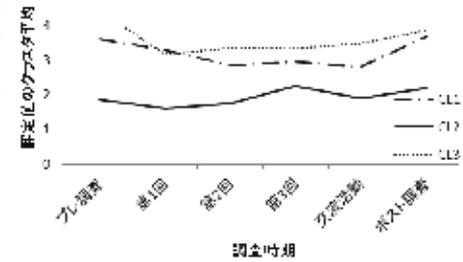


Figure 7 「不安度」の平均値

キルの差による結果であると考えられる。あらかじめ効果的なグループの編成を行うことや、3年生に対して事前にトレーニングを行うことが必要であると考えられる。

また、第3クラスが全体のおよそ半数を占めている。このことから、職場体験が楽しみであるが、うまくできるか不安であると考えている生徒が半数存在することがわかった。

本実践を通して職場体験学習に対する意識の変化が見られたのは、全体における不安の減少と直前における増加、及び第1クラスターの期待の上昇と第3クラスターの不安の減少であった。第3クラスターの不安の減少については、全体の傾向と大きく異なり、プレ調査とポスト調査間にも有意差が見られた。この結果は、トレーニングの前後で不安の上昇が見られた金山・中台・江村・前田（2005）とは異なる結果となった。

以上から、本実践におけるソーシャルスキルトレーニングは全体の半数を占めている、職場体験学習に対して、期待と不安の双方が高い生徒に対して、不安を低減させる効果があるという結果が得られた。

V 謝辞

本研究にご協力いただきました、多くの先生方、そして生徒の皆様に心より感謝申し上げます。

参考・引用文献

相川 充 (1996). 社会的スキルという概念 相川 充・津村 俊充 (編) 社会的スキルと対人関係：自

- 己表現を援助する., 誠信書房, 3-21.
- 江村 理奈 (2007). 中学生に対する集団社会的スキル訓練の効果—上昇群と下降群の比較, 広島大学大学院教育学研究科紀要 第三部 教育人間科学関連領域, **56**, 293-302.
- 江村 理奈・岡安 孝弘 (2003). 中学校における集団社会的スキル教育の実践的研究 教育心理学研究, **51**, 339-350.
- 江村 理奈・磯部 美良・岡安孝弘・前田健一 (2003). 社会的スキルの低い中学生に対する集団社会的スキル教育の効果, 広島大学心理学研究, **3**, 117-126.
- 藤原 和政・河村 茂雄 (2011). 中学生に対する学級単位の集団ソーシャル・スキルトレーニングの効果—生徒のレベルに着目した検討— 日本教育心理学会第53回総会発表論文集, **53**, 473.
- 本田 真大・大島 由之・新井 邦二郎 (2009). 教育心理学研究, **57**, 336-348.
- 金山 元春・中台 佐喜子・江村 里奈・前田健一 (2005). 中学校における職場体験学習と連動したソーシャルスキル教育 広島大学心理学研究, **5**, 132-148.
- 金山 元春・小野 昌彦 (2006). 中学生に対する集団社会的スキル訓練, 奈良教育大学教育実践総合センター研究紀要, **15**, 77-84.
- 国立教育政策研究所生徒指導研究センター (2011). 子どもの社会性が育つ「異年齢の交流活動」—活動実施の考えかたから教師用活動案まで—.
- 文部科学省 (2008). 中学校職場体験ガイド.
- 大対 香奈子・松見 淳子 (2010). 小学生に対する学級単位の社会的スキル訓練が社会的スキル, 仲間からの受容, 主観的学校適応感に及ぼす効果, 行動療法研究, **36** (1), 43-55.
- 佐賀県教育センター (2012). 授業の展開案, 授業に役立つ実践研究 <http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h23/06%20kyouiku-soudan/tenkaian.htm> (2015年9月4日)
- 下村 英雄 (2010). 職場体験の効果をどのように考えるか ～量的な測定と質的な測定～ 進路指導, **83** (1), 9-12.
- 高橋 史・小関 俊祐 (2011). 日本の子どもの対象とした学級単位の社会的スキル訓練の効果—メタ分析による展望—, 行動療法研究, **37** (3), 183-197.
- 寺崎 里水 (2009). 富山県「14歳の挑戦」にみる職場体験の現状と課題 日本労働研究雑誌, **7**, 44-54.
- 山田 智之 (2008). 職場体験による中学生の進路関連自己効力感の変容と影響要因 (希望レベル・対人スキルとの関係) キャリアデザイン研究, **4**, 49-62.
- 山田 泰広・神山 貴弥 (2009). 進路決定自己効力感から見た中学生の職場体験学習の効果に関する研究 日本教育心理学会総会発表論文集, **51**, 712

The Practice of Social Skills Training for Work Experience in Junior High School

Kazuki MATSUURA^{*1}, Motoko MIYAKE^{*2}

Keywords : work experience, social skills training, communication skill, junior high school students

※1 Student of Division of Education, Graduate School of Education, Okayama University

※2 Division of Education, Graduate School of Education, Okayama University

Appendix 1 気持ちの良い電話のかけ方（見えない相手への質問のしかた）

過程	学習活動	留意点
導入	1. ティーチングアシスタントの自己紹介を聞く。 2. 職場体験学習に向けたトレーニングを行うことを知る。 3. 今日のテーマと目標を知る。 —プリントの配布—	1. 次回が自己紹介のトレーニングなので、モデルとなるような自己紹介をする。 2. 職場体験学習では、はじめて出会う大人の人と接することが多いことを知らせる。それに向けて、人との接し方の練習をすることを告げる。 3. テーマと目標を知らせる。 —プリントの配布—
ウォーミングアップ	4. ゲームを通して、言葉だけで伝えることの難しさに気づく ルール：先生が思い浮かべている絵を言葉だけで説明する。生徒は、説明通りに四角の中に絵を描く。質問はできない。（最後に見本の絵を提示する）	4. 見本の絵を提示する前に、生徒同士で絵を見比べさせ、同じ言葉を聞いていても違う絵を描いていることに気づかせる。
モデリング	5. 2つのモデリングを見て、悪い電話のかけ方の望ましくない点について考える。 6. ポイントを押さえたモデリングを見て、悪いモデリングに比べどのような点が良かったのかについて考え、グループで話し合う。 7. プリントを読んで、電話のかけ方のポイントを知る。 —プリントの配布— 気持ちの良い電話のかけ方のポイント ・ ゆっくり・ハキハキと ・ 相手にあった言葉づかいをする ・ 学校名や氏名を名乗る ・ 感じの良いあいさつをする ・ 担当の方に代わってもらう ・ 相手の都合を聞く ・ 要件を伝える ・ 確認をする ・ お礼を言う ・ 確認をする	5. モデリングごとに、どのように感じたかを生徒に考えさせる。 —モデリングシナリオ参照— 6. モデリングを見た後にグループで話し合うことを予告する。グループワークの前に、意見を個人でできるだけ多く書かせる。 —モデリングシナリオ参照— 7. 説明を加えながら、電話のかけ方のポイントの記されたプリントを読ませる。 —プリントの配布— プリントに記されていること以外に意見が出ていたら、その点もフィードバックを行う。
ロールプレイ	8. ポイントに気をつけながら、隣同士でロールプレイで練習を行う。	8. 隣同士で背中合わせにさせ、ロールプレイで練習を行わせる。
まとめ	9. 学習のまとめをする。	9. 本時の目標と職場体験学習における活用について話し、学習についてふりかえらせる。

モデリングシナリオ	
<p>●えらそうな電話のかけ方</p> <p>B 「はい、〇〇スーパーの〇〇です。」</p> <p>A 「もしもしー？ねー、今度事前訪問でそっちに行くんだけど、いつ行ったらいい？」</p> <p>B 「え？どなたでしようか？」</p> <p>A 「とりあえず、いつ行ったらいいか教えて？」</p> <p>B 「え…？」</p> <p>A 「電話代かかるから、さっさと教えて！」</p> <p>●遠慮がちな電話のかけ方</p> <p>申し訳なさそうに、もじもじしながら</p> <p>B 「はい、〇〇スーパーの〇〇です。」</p> <p>A 「お忙しいところすみません…〇〇中学校の〇〇です…。」</p> <p>B 「お電話が遠いようですので、もう一度よろしいでしょうか？」</p> <p>A 「〇〇中学校の〇〇です…。えっと…えーっと、今、お電話大丈夫でしょうか？」</p> <p>B 「大丈夫ですよ」</p> <p>A 「えっと…職場体験でえーっとお世話になるんですけど…、えーっと、その…事前訪問っていうのに行かないといけないんです…。」</p> <p>B 「そうなんです。あいにく、ただいま担当の者が席をはずしております。」</p> <p>A 「はい…じゃあ、やっぱいいです…。」</p>	<p>●気持ちの良い依頼</p> <p>B 「〇〇スーパーの〇〇です。」</p> <p>A 「お忙しいところ失礼します、〇〇様でしょうか？」</p> <p>B 「はい、そうですよ。」</p> <p>A 「私は、〇〇中学校の〇〇と申します。」</p> <p>A 「11月〇〇日からの職場体験学習の件でお電話を差し上げたのですが、担当の〇〇様はいらっしゃいますか？」</p> <p>B 「わたしです。」</p> <p>A 「初めまして。今、よろしいですか？」</p> <p>B 「大丈夫ですよ」</p> <p>A 「今日は、お聞きしたいことがあって電話をしました。」</p> <p>B 「はい。」</p> <p>A 「このたび、11月〇〇日からの職場体験学習で、そちらで〇名の方が体験させていただくことになりました。事前に打ち合わせをさせていただきたいので、よろしければ〇月〇日〇曜日の〇〇時ごろおわががいたいのですが、ご都合はいかがでしょう？」</p> <p>B 「〇月〇日の〇〇時ですね。大丈夫ですよ。」</p> <p>A 「わかりました。それでは〇月〇日の〇時ごろにおわががいたします。」</p> <p>B 「はい、お待ちしております。」</p> <p>A 「お忙しいところ、ありがとうございました。失礼します。」</p> <p>B 「ご丁寧にありがとうございます。失礼します。」</p>

Appendix 2 印象のいい自己紹介のしかた

過程	学習活動	留意点
導入	1. 前時の授業についてふりかえる。 2. テーマと目標を知る。	1. 前時から職場体験学習での人との接し方の練習をはじめたことを思い出させる。 2. テーマと目標を知らせる。 —プリントの配布—
	今日の目標 ①自分のことを知ってもらうことの大切さに気づく ②自己紹介のポイントがわかる	
ウォーミングアップ	3. ゲームを通して、クラスメイトの意外な一面に気づく。	3. 興味のわくような質問をし、クラスメイトの意外な一面に気づかせる。
	ルール：先生が2択の質問をするので、自分の答えのほうに、真ん中の紐をくぐって移動する。	
モデリング	4. 2つのモデリングを見て、印象の悪い自己紹介の望ましくない点について考える。 5. どのような自己紹介をすれば印象が良くなるのか、グループでポイントを考えて発表をする。 6. 自己紹介のポイントを知る。	4. モデリングの後にどんな自己紹介のしかたが良いのかを考えることを予告する。モデリングごとに、どのように感じたかを生徒に考えさせる。 —モデリングシナリオ参照— 5. グループワークの前に、意見を個人でできるだけ多く書かせる。意見をグループ内で発表し、まとめて発表させる。 6. 発表された意見をまとめ、5つ程度のポイントにして黒板に示す。 この後のロールプレイへつなげるために、「自己アピールをする」というポイントが出なければ提示する。
ロールプレイ	7. 自己アピールの内容を考えてワークシートに書き込む。 8. ロールプレイを通して、ポイントを守った自己紹介を行うと印象が良くなることに気づく。 1人がグループに向かって自己紹介をし、聞き手は特に守ることが出来ていたポイントや、ポイント以外に良かった点をメッセージカードに書いて渡す。	7. 隣同士で背中合わせにさせ、ロールプレイで練習を行わせる。 8. ロールプレイを行い、その評価を生徒同士にさせることで、印象の良い自己紹介の大切さに気づかせる。
まとめ	9. 学習のまとめをする。	9. ポイントを守った自己紹介をしたときと聞いたときの感想を聞く。本時の目標と職場体験における活用について話し、学習についてふりかえらせる。

モデリングシナリオ
<p>●態度の悪い自己紹介 ポケットに手を入れて、足をくずした状態で。お辞儀も首です。 「〇〇中学校2年生の●●です。よろしくおねがいします。終わりです。」</p> <p>●消極的な自己紹介 もじもじしながら、紙を見て、小さな声で 「は、はじめまして・・・！」 えー、〇〇中学校の、2年生の、●●です。えーっと、えー—————特技は、絵を描くことです。」</p>

Appendix 4 交流活動

2年生	3年生
テーマ「職場体験について先輩に教わろう」	テーマ「職場体験のエピソードを後輩に伝えよう」
<p>授業の目的 2年生が職場体験へ行く前の総仕上げとして、トレーニングで得た知識をスキルとして定着させるための交流活動です。それに加え、先輩と後輩という意識を育み、学校内での関係づくりや個々の行動の変化の醸成を目的としています。</p>	
<p>目標 3年生の先輩に礼儀正しく接することができる。 これまで積み重ねてきた練習の成果を発揮し、先輩の前という場面にふさわしい振る舞いをするを期待しています。 3年生から役に立つ情報を教わり、職場体験を成功させる。 自分の知りたい情報を教わるには、聞き手側にも相応のスキルが必要となります。どうすれば、相手に自分の知りたいことを伝えるのか、というスキルの実践場面となります。</p>	<p>目標 自分のエピソードを他人にわかりやすく伝えることができる。 進学・就職における面接では自らの意見を、わかりやすく端的に説明することが求められています。また、新たな環境へ飛び込む際にも、自己紹介や話の中で自らのエピソードを伝える場面が待ち構えているため、練習を行う機会と位置づけられます。 先輩として、後輩に何かを残すことができる。 「何か」の部分は個々人で思うものがあるかと思いますが、卒業までにその「何か」を見つけることがこれからの学校生活をすごしていく上で必要なのではないのでしょうか。その機会としてこの活動があり、3年生の子どもたちの自己有用感を醸成させられます。</p>
<p>グループ単位で活動し、グループを変えながら下記を3回繰り返します。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>① あいさつ・自己紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ (4分) 自己紹介は2年生は第2回で練習しているので、練習成果を発揮できるようにしましょう。</p> <p>② 3年生から「職場体験 私のエピソード」発表・・・・・・・・ (2分) 発表担当を決め、必ず1人1回は発表できるようにする。制限時間が短いため、短いエピソードを数人で話すのか、長いエピソードを一人で話すのかを事前学習で決めておく必要があります。</p> <p>③ 2年生から「職場体験についての質問」・・・・・・・・・・・・ (2分) 質問内容は前もって決めておき、同じグループになる3年生に先に答えを考えておいてもらいます。</p> <p>④ 2・3年生で協力「こんなときどうする？」・・・・・・・・・・・・ (2分)</p> <p>⑤ あいさつ (2年生からお礼・3年生からひとこと)・・・・・・・・ (2分)</p> </div>	